

お わ り に

原子力技術研究所長 横山 速一



放射線は私たちの周りに日常的に存在しています。レントゲン、非破壊検査、食品照射など、その存在無しには私たちの生活が成り立たないほどです。また、宇宙線は太古の昔から降り注ぎ、ラドンやラジウム温泉は、国内外で治療場として愛用されてきました。ただ、一般的には放射線は少し遠く怖い存在として認識されています。

私たちが生きるとはリスクを採ると言うことです。自動車の運転、病院での手術、喫煙など私たちは多種多様のリスクに折り合いをつけて過ごしているわけですが、そのためにはその影響を正しく理解しなければならないと思われます。

私たちの研究は放射線の影響を正しく理解するための科学的な知見を提供することです。特に、私たちが主な対象とする低線量放射線の生物影響評価研究では、高い線量（率）の放射線の場合とは異なる幾つかの現象を発見してきました。自然の放射線と共に生きてきた地球上の生物には、放射線に対する基本的な防御機能あるいは適度な放射線の影響を上手く活用する機能が備わっていると考えることは不思議なことではないでしょう。これらの研究を通じて、改めて、生物の環境への適応応答の見事さ、素晴らしさも感じているところです。研究は未だ始まったばかりですが、その懐の深さは私たちの好奇心を捉えて離しません。本報告書によって、一人でも多くの人が放射線に関する知識を身近に感じ、また若い研究者が低線量放射線による生物影響の研究の世界に幾分かでも魅力を感じて取り組むことがあれば、望外の喜びです。

本報告では、当所における低線量放射線研究の最近10年間の成果を中心に紹介させて戴きました。これらの成果は、各方面の暖かいご指導と関係者の弛みない努力によるものです。ここに、関係各位に深く感謝するとともに、今後とも益々のご指導、ご鞭撻をお願いするものです。